

# Annual Report 2022

令和4年度 活動レポート  
神戸大学大学院農学研究科  
地域連携センター

神戸大学大学院農学研究科地域連携センター

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 (A103号室)

Tel 078-803-5939 E-mail a-chiiki@people.kobe-u.ac.jp WEB https://www.edu.kobe-u.ac.jp/ans-chiiki

オフィスアワー 火・金 12:00~15:00 ※不在の場合がございます。メールか電話で、事前にお問い合わせください。

Center for Regional Partnership  
Graduate School of Agricultural Science  
Kobe University

## | 地域連携センターの役割

近年、大学では、教育・研究と並んで社会貢献の重要性が増しています。農学研究科地域連携センターは、神戸大学が保有する知識や技術を、農山村地域の問題解決および価値創造において積極的に活用し、地域社会の発展に貢献することを目的に、2003年に創設されました。

地域連携センターに求められている主要な役割に、地域のシンクタンク機能、地域で働く人材養成機能、相談支援機能があります。こうした機能を果たすべく、地域住民、行政、NPO等と農学研究科を結び、その活動をサポートする中間支援の役割を担っています。同時に、センターが中心となり、共同研究、セミナー、ワークショップ、意見交換会などの地域交流を積極的に実施し、地域の課題解決やリカレント教育などの社会貢献を進めています。

農学研究科地域連携センターの主な事業は、次の3つです。

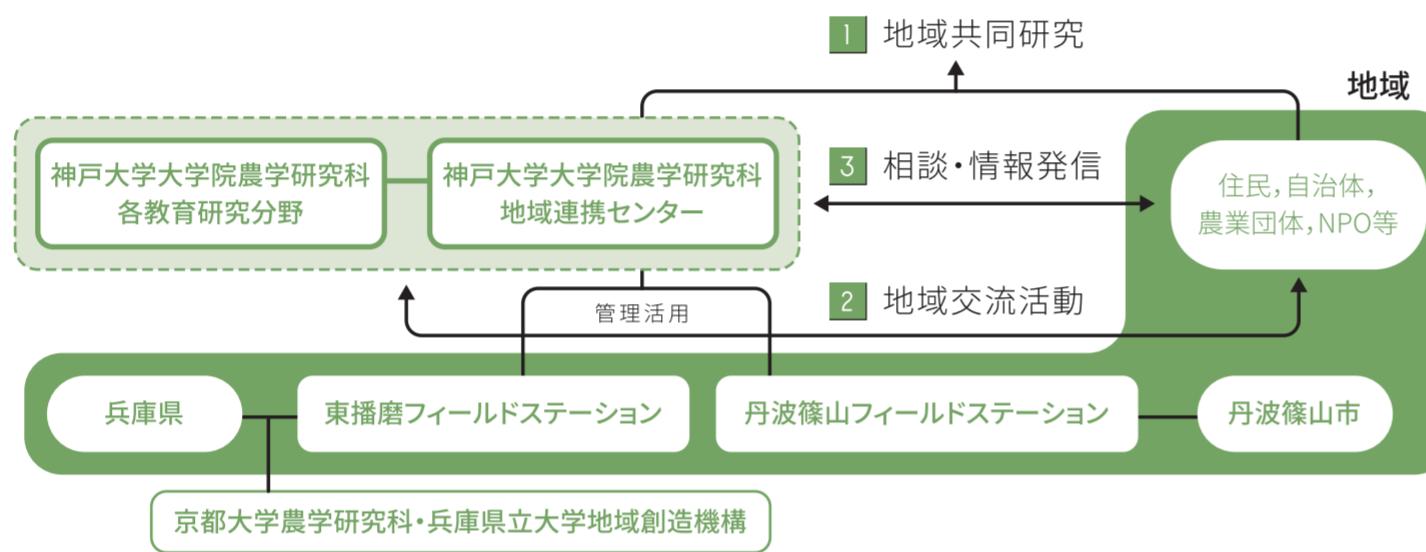
(1)地域共同研究 (2)地域交流活動 (3)相談・情報発信

農学研究科の基本目的は、「食料・環境・健康生命」に関わる諸問題を専門的かつ総合的に教育研究することです。当センターは地域と農学研究科の知を共有し、問題解決・価値創造に貢献することにより、ともに発展することを目指して、活動を進めています。



## | 組織体制

地域連携センターは、農学研究科および神戸大学地域連携推進本部のもとに組織されています。常勤・非常勤の地域連携コーディネーターを中心に、農学研究科教職員や各種地域団体と連携を図りながら事業を推進しています。学内外の幅広い見知りや情報、それに基づく助言を得るためにアドバイザーも設置しています。



## 2022年度スタッフ

センター長	田中丸治哉 (生産環境工学 教授、神戸大学地域連携推進本部副本部長)
副センター長	中塚雅也 (食料環境経済学 教授)
運営委員	長野宇規 (生産環境工学 准教授) 小川景司 (食料環境経済学 助教) 笹崎晋史 (応用動物学 准教授) 石井弘明 (応用植物学 准教授) 橋本堂史 (応用生命化学 准教授) 鈴木武志 (応用機能生物学 助教)
地域連携コーディネーター	清水夏樹 (特命准教授) 梅村 崇 (学術研究員) 山田真輝 (教育研究補佐員) 長谷川致美 (教育研究補佐員)
アドバイザー	伊藤一幸 (神戸大学 元教授) 高田 理 (神戸大学 名誉教授) 星 信彦 (神戸大学 教授) 内平隆之 (兵庫県立大学 教授)

## | 地域共同研究

地域の課題解決や価値創造を目的に、  
行政、協同組合、住民団体、NPO等と連携して調査研究を実施しています。  
マッチングや事業化、事務局業務等も行います。



## 2 地域交流活動

農学部と地域とのパートナーシップにより、懇話会、学習会、フォーラム・シンポジウムなどを開催。知を共有し、地域活動を推進します。

### フォーラム、研究会、セミナーの開催

【実施の概要】

#### 1. 地域連携研究会／A-Launch

昼休みの時間をつかった地域連携トークイベント「A-Launch」を2012年度より開催しています。

第21回 6月21日

「これからの米作りと農村を担うのは誰だー山口県の集落営農を参考にー」

話題提供 小川景司／食料環境経済学講座 助教

#### 2. バイオエコノミー研究会

ポスト化石燃料時代の農林水産業、工業、エネルギー利用、生態系など多様なトピックについて、セミナー形式で討論を行う集まりです。

第8回 7月20日 「持続可能な暮らしを支える共創型の小規模環境技術が果たす役割」

話題提供 三橋弘宗氏／兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員

第7回 1月28日 「カーボンニュートラル社会の実装に向けた微細藻類ユーグレナの利用」

話題提供 豊川知華氏／株式会社ユーグレナ 研究員

#### 3. 農の学び場(Rural Learning Network)

セミナーを通じ、1) 地域の問題を取り組み実態の理解、2) 先進的・革新的な取り組みや技術の共有、3) セクターと地域を越えたネットワークづくり、4) 現場発の政策・事業・研究の形成の場となることをを目指す農村地域の学習ネットワーク(通称:るーらん)です。

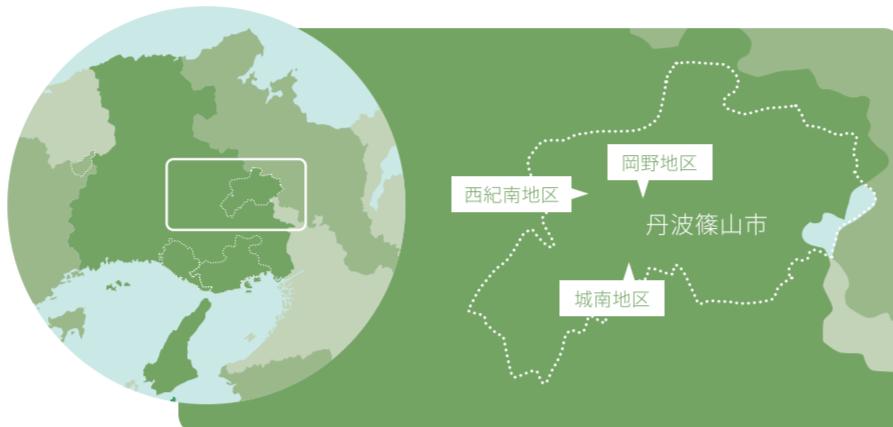
第30回 12月14日

「地域の再生可能エネルギー 丹波篠山で何を始めよう?！」

話題提供 荒木康孝氏／新宮エネルギー株式会社

### 学生地域活動サポート

当センターでは、地域と連携した取り組みを進める学生団体に対し、情報提供、情報発信サポート、相談対応など、活動の発展と充実に向けた支援を実施しています。今年度は3団体(にしき恋、AGLOC、Luonto)の活動をサポート。あわせて、丹波篠山市で活動している活動団体間で相互の情報共有を図ることを目的に「篠山学生活動団体連絡協議会(さざれん)」を組織し、運営を支援しています。また、学内での取り組みとして、2013年度より、丹波篠山市で活動する学生団体が農家とともに生産した農作物(黒大豆等)の直売所「ささやま家(や)」を設置。生産から販売までの過程を経験する機会となっています。



#### 地域農産物栽培・販売による地域PR

にしき恋

設立10周年を迎えた2022年度はコロナによる制約からも少し解放され、多くの農家さんのもとへ農業ボランティアを行いました。また、農業以外にもオオヤマリッシュや小学生交流、中学生交流といった活動を行い、様々な形で地域の方々と交流を図りました。にしき恋のファーム作業でも、たくさんのメンバーの協力によって、収穫した黒枝豆並びに黒豆を完売しました。



#### 農業ボランティアをとおして地方創生を考える

AGLOC

AGLOCは農業と国際交流という2つのコンセプトを併せ持つサークルです。メインの活動として、月1・2回ほど兵庫県丹波篠山市において農業ボランティアを留学生と共に実施しました。他にも地域イベントの運営や地元の小学生と交流、留学生と町の城下町を観光ガイドをするとなど様々な活動を行いました。



#### 多世代交流拠点づくりと次世代継承

Luonto(ルオント)

2021年度の実践農学をきっかけに誕生した神大生中心のサークルです。多世代交流拠点「アグリステーション丹波篠山」と連携して学生カフェの開設や農業のお手伝いを行いました。カフェ開設ではメニュー開発や内装作りに取り組みました。また地域の子どもたちも関わりながら、縁日の手伝いや神戸市灘区の成徳祭りのお手伝いをすると、幅広く活動しました。

### 「ノラバ」の事務局運営

当センターでは、農村ボランティアバンクKOBE「ノラバ」の事務局として、ボランティアを必要とする農家と学生・市民のマッチングを進めています。昨年度に再構築した仕組みの下で、繁忙期の情報発信強化などに取り組んだ結果、2022年度(4月~2月)は、新規8軒で合計18軒の農家登録と新規61人で合計130人のノラバーター登録がありました。マッチング数は66件となり、前年より大幅に活性化しました。



### 神戸農村スタートアッププログラムの企画・協力

神戸市の農村地域(北区・西区)での起業や事業づくりに特化した、創業支援プログラムの企画に協力しています。2019年9月より実施しており、第4期生として24名が農村地域の実情や、農村地域で起業する上の心得などを学びました。(神戸市主催)。

#### セミナー

食・農・環境ビジネスに関する理論やノウハウの習得を目的にセミナーが実施されました。事業家や専門家などを講師に迎え、実際に農村で事業を進めるうえでのプロセスなどを学びました。

#### 現地ワーク

神戸の農村(北区・西区)を実際に訪れ、その地域や人々、仕事を知ることを目的に、フィールドワークを行いました。農村や市内で活躍する事業者の仕事場を訪問しました。

#### ビジネスモデルの構築

事業を通して実現したい社会について考え、そのためのビジネスモデルを構築。ディスカッションを重ねながら、想いやアイデアを形にすることを支援しています。

### 3 相談・情報発信



#### ホームページ等による情報発信

大学と地域をつなぐ拠点として、共同研究や地域活動に関する相談対応、情報発信を行っています。Annual Report(活動報告書)の発行をはじめ、ホームページやSNSを通じて地域連携活動に関する情報を随時発信しています。



地域連携センター／ホームページ  
<https://www.edu.kobe-u.ac.jp/ans-chiiki>



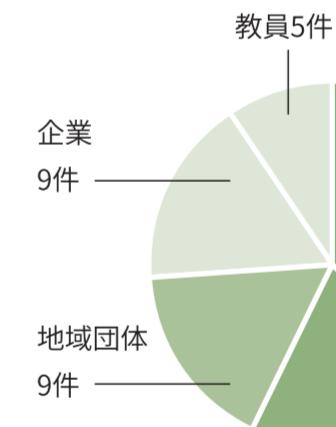
Facebook  
<https://www.facebook.com/kobe.univ.agri.renkei>



Twitter  
<https://twitter.com/agregion/>

#### オフィスアワーの実施

大学と地域をつなぐ拠点として、所属するスタッフが各種相談に対応しています。2022年(1月~12月)は54件の相談が寄せられました。内容は食農コープ教育や地域活性化などに関する相談が多く、相談者は神戸大学生・大学院生20件、行政11件、地域団体9件、企業9件、教員5件と幅広く相談を受け付けています。



### 4 食農コープ教育プログラムの推進

農学部では、学部教育で培う専門性(理論)と結びつけながら、生産者や生活者の視点から地域の課題を学び(実践)、課題解決に貢献できる人材の育成を目指す「食農コープ教育プログラム(Cooperative Education)」に取り組んでいます。特に、現場での実践活動をともなう科目の内容を充実させる取り組みを進めており、当センターはプログラムの事務局として、3つの科目の運営を支援しています。

1年次

現場に行ってみよう

2年次

専門知識を増やしながら実践経験を重ねよう

3年次

経験と知識を融合させよう

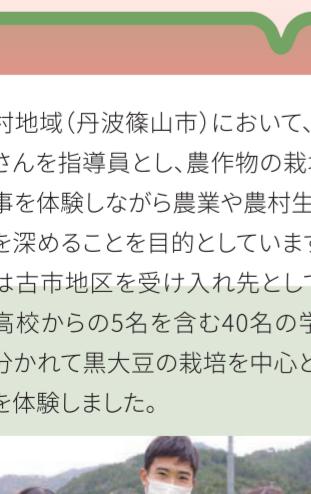
4年次

#### 農家に師事する実践農学入門

1年次通年(2単位)

実践

農村地域(丹波篠山市)において、地元の農家さんを指導員として、農作物の栽培や、むら仕事を体験しながら農業や農村生活への理解を深めることを目的としています。2022年度は古市地区を受け入れ先として、篠山東雲高校からの5名を含む40名の学生が9班に分かれて黒大豆の栽培を中心とした農作業を体験しました。



#### 現場の課題に参画 実践農学

2年次通年(2単位)



#### 支える仕組みを学ぶ

#### 兵庫県農業環境論A/B

2年次 第3Q/第4Q(1単位×2)

兵庫県の農林水産業の位置づけ、現状と課題、政策展開を体系的に正しく理解し、批判的に評価した上で、適切な対策を提案する力を養うことを目的としています。兵庫県農業環境論Aでは、兵庫県職員、農水省職員、JA職員等を講師に迎え、オムニバス形式で講義を実施しました(履修者数:91名)。兵庫県農業環境論Bでは、「産地関係者が“あまクイーン”と“紅クイーン”的栽培を始めたいと思うような販売戦略を考える」という兵庫県のイチゴをブランド化し生産拡大することを目的としたテーマで、3班に分かれて政策立案に向けたワークショップを実施しました(履修者数:15名)。

※2017年度より「兵庫県農業環境論A」と「兵庫県農業環境論B」に分割

理論